





七二  
緊急

受借一四三〇七

一五三〇

電〇〇七九五

あ  
政・航本  
人  
事

佐藤

大塚第一師、海防局

機密第〇二〇八三〇番電

南西諸島方面航空基地防衛関係員ニ對シテハ警備隊ヲ置カズ之ヲ航  
空隊ニ配屬ヤシメズラレテルトコロ種攻略軍ニ對スル準備ヲ要ス  
ル現状ニ於テ用地附近陣地構築各種兵器裝備等實施上容易ナラザル  
モノアリ航空隊ヲシテ固有任務以外ニ是等ヲ兼シムルコトハ防備上  
重大缺點ヲ生ジ蓋シテ警備隊監視隊ヲ連ニ設置ヤラレタメ度尙當方  
而列島防備隊ハ沖縄方面ハ警備隊ニテ大島方面ハ防備隊擔任トヤシム  
ルニ付防備隊配屬強化ノ要アリ

通九七六 月一日ヲ十一日 佐世保

海軍

373

第十師團

# 親報

七十二  
受領一七四〇五  
一八二五  
〇〇八二三

第三基地航空部隊

大澤部一部・南西方面部隊各一部・聯合艦隊口

機密第〇二一〇四六番電

## 暗號軍機秘

三〇〇〇連合作第一八號

一七月五日附八五一部隊ヲ八▲ニ編入ス

二第八空襲部隊指揮官ハ八五一部隊ヲシテ主トシテ四南ヲ基地トシ急  
急速戦力向上ハ特ニ夜間索敵觸接能力向上ハ及器材ノ整備充實ヲ

ト  
練成期間ヲ二ヶ月ト規定ス

三八五一部隊大期作戦時展開基地ヲマニラニ規定在ルル基地員物件ハ  
非南航空部隊ニ必要ナル程度ヲ殘置ス其ノ他ハ便アリ表第「マニラ  
」ニ移動スベシ。

海軍一〇七一

西二〇三十一

二二通一放

海

軍

394

第百十部

9990

ノ



第二 第三 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十 第十一 第十二 第十三 第十四 第十五 第十六 第十七 第十八 第十九 第二十 第二十一 第二十二 第二十三 第二十四 第二十五 第二十六 第二十七 第二十八 第二十九 第三十 第三十一 第三十二 第三十三 第三十四 第三十五 第三十六 第三十七 第三十八 第三十九 第四十 第四十一 第四十二 第四十三 第四十四 第四十五 第四十六 第四十七 第四十八 第四十九 第五十 第五十一 第五十二 第五十三 第五十四 第五十五 第五十六 第五十七 第五十八 第五十九 第六十 第六十一 第六十二 第六十三 第六十四 第六十五 第六十六 第六十七 第六十八 第六十九 第七十 第七十一 第七十二 第七十三 第七十四 第七十五 第七十六 第七十七 第七十八 第七十九 第八十 第八十一 第八十二 第八十三 第八十四 第八十五 第八十六 第八十七 第八十八 第八十九 第九十 第九十一 第九十二 第九十三 第九十四 第九十五 第九十六 第九十七 第九十八 第九十九 第一百

- 第一 第二 第三 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十 第十一 第十二 第十三 第十四 第十五 第十六 第十七 第十八 第十九 第二十 第二十一 第二十二 第二十三 第二十四 第二十五 第二十六 第二十七 第二十八 第二十九 第三十 第三十一 第三十二 第三十三 第三十四 第三十五 第三十六 第三十七 第三十八 第三十九 第四十 第四十一 第四十二 第四十三 第四十四 第四十五 第四十六 第四十七 第四十八 第四十九 第五十 第五十一 第五十二 第五十三 第五十四 第五十五 第五十六 第五十七 第五十八 第五十九 第六十 第六十一 第六十二 第六十三 第六十四 第六十五 第六十六 第六十七 第六十八 第六十九 第七十 第七十一 第七十二 第七十三 第七十四 第七十五 第七十六 第七十七 第七十八 第七十九 第八十 第八十一 第八十二 第八十三 第八十四 第八十五 第八十六 第八十七 第八十八 第八十九 第九十 第九十一 第九十二 第九十三 第九十四 第九十五 第九十六 第九十七 第九十八 第九十九 第一百

第三十卷

第三十卷

第三十卷

第三十卷

第三十卷

第三十卷

第三十卷

第三十卷

第三十卷

第十卷

375



人

至親  
急展

受領一三〇五五〇

一三二五五

一〇一四八

作・兼本

傍

南西方面艦隊  
聯合艦隊

一三二五〇番

局長

勸告  
南西方面艦隊

参考  
次長 岡 司

白紙一覽第二〇三號

第二十八航空隊ノ全力轉用ヲ仄聞スルモ新クテハ△△〇向キ船舶輸送ノ事實上停止ノ外無キニ至ルヲ以テ現行協定ニ基キ海軍擔任船舶護衛並哨戒ノ爲ノ所要兵力ハ是非與殘置セラレ度

一四九七 呂二五八一八三六七、五七二二一海軍

第十信課

377

8950

局長

課長

局員

又今般路能實行ヲ左右スル兵力運用ハ事前ニ協働ノ上實施スルコト  
ニ關シ重クテ配慮アリ度。

第十卷

海軍



6990



至急

七二 受信一八四五〇 譯了二〇四五 電〇〇九五  
譯始二〇一五 人事

● 横人事部、吳人事部、舞人選部、佐人事部  
● 人事總局

機密第〇二一六四五番電

當隊機密第〇二一三四六番電中左ヲ搜入サレタシ  
三上根麾下各部ニ對スル補充命令ハ九月上旬迄迄發令相成度。

〔東通註一〇九三ニテ既配布〕

通一一八五 呂二日(一四九三〇)上陸

海軍

398



南遣艦隊機密第二八〇五五番電（六月）通二六特根編化ノ要點ヲ  
 以實狀ヲ併セ考へ第九十一番機密ヲ解隊頭村中佐ヲ第四南遣艦隊司  
 令部附第九十一番機密本隊ヲ第二本隊別隊兼地際附ニ各要要發令方  
 至急取計ハレ度。

第十信課

海軍白

0572

作

七三受備一七二〇三 丁一八二〇 電〇二三五 作・監 蔵

親展報

扶桑・第二編 戸・四

大橋

三十二番 戸・二十二番 戸・二十二番 戸・二十二番

一〇一番 戸・一〇一番 戸・一〇一番

高橋

第一三番

福

香

赤

川

工

赤

扶桑第四編 経路ハB Cニテ補給E Cニ回航待機スベシヨリカレ

部隊ニ編入

三遊隊部隊指揮官H A B出撃ノ際出来得限リ扶桑用機銃其ノ他ヲ輸送便宜扶桑ヲシテE Cニ於テ機銃増備其ノ他整備工事ヲ實施セシムベシ

第一六〇三 第二〇二二(十一) 日 吳 海 軍

第十卷

380





七 六

受信開始一九五〇〇

譯了〇八三〇

電電〇〇二九四九三

官房司令官  
軍務部  
航空隊司令官  
航空隊副司令官  
航空隊專務員



東京通信隊

大本營海軍部・聯合艦隊口

一三航空艦隊口

機密第〇六一三一四番電

二分ノ二

發 參謀長

宛 航空本部總務部長

七月一日報告

一、飛行機現狀

- (1) 三八一空戰團第六〇二飛行隊零戰二一型 二二V七〇W〇零戰二二型
- 六X五V〇Z〇零戰三二型、三A一B〇〇〇零戰五二型

383

〇一六D三七B 〇雷電一二型 〇B 〇F一五G 〇

戰團第九〇二飛行隊月光一一型 (A)(B)(C)ノ順

一四、一〇、〇、〇

(D) 航空基地輸送機隊零式戰輸送機四、四、〇、〇同(貨物一、一

、〇、〇 九六式輸送機二、二、一、〇 九六式陸攻二三型二、

三、一、〇 九七式飛行艇二三型一、一、一、〇 晴空一、一、〇、

〇

搭乗員現狀

(一)三八一空戰團第六〇二飛行隊A八B二五(六)〇一二D八計五

九

戰團第九〇二飛行隊A三(一)B三〇二D二計一一

(二)第十三航空艦隊輸送機隊(近夕轉出豫定約二組ヲ含ム)A三B

三零式輸送機A三・B三・〇〇計五六

九六式輸送機A二・B三・〇〇計五

海

(一)

第十卷



九七式飛行艇 A 一・B 〇・〇 計一  
 騰空 A 〇・B 一・〇 計一  
 一式輸送機 A 〇・B 三・〇 計三（外二零式操 A 一 九六式搭臺  
 三）

第百一十號

三

8490

親展

局長

局長

受信二六四五〇

了二三三〇 電〇二八五五

航空基地

航空基地

人事 局・各人事部

機密 秘

第一航空隊・六一航空隊

機密第〇六一三三〇番電

五二三航空隊司令 二六五空司令 五二五空司令連名

並に本部よりアノ諸島方面ニ殘留セル機各司令共飛行機隊ヲ直率  
西力口リソ諸島方面ニ作戰中敵部隊マリアノ方面ニ策動目下兩方面長  
期連絡杜絶ノ狀況ニアリ之方爲今期下士官兵ノ定期考課表調製ハ困難  
ニ付不提出ノコトニ諒承相成度

通三六八五

四一〇八一五七一〇六三 通

384



針點一八度一二〇〇北緯三度二〇分東經一三二度三五分・二〇五  
 度十日〇一〇〇北緯二八度一二分東經一三〇度五五分・二二〇度  
 ○七三〇北緯二六度五七分東經一二九度四分・二四四度一五〇  
 ○西日着實送一六節乙部隊 同地止於一 部人員物件揚三圖六  
 準備アリ度

急雷艇其經由日五<sub>中込</sub>四艘組目 直接乙部隊ヨリ通報

甲部隊ハ一九〇〇<sub>中込</sub>日着實送(日五)三直日十日二〇〇〇針點

二〇〇十日〇四〇〇北緯二四度一三分東經一二四度一二分二四〇

ハシ海峡通過十二日〇六〇〇北緯二〇度五六分東經一二二〇度三

分三二〇 十三日一三〇〇北緯一四度五分東經一一六度一三分

三三〇 十四日二二〇〇北緯八度一八分東經一一〇度三三分三二

〇十五日一〇〇〇北緯五度四二分東經一〇七度二三分一九〇

節信梁  
 限梁

海

軍

二三〇〇番第二層一七分東經一〇六度四六分二五〇

十六日早三〇〇五(一) 船通船四(八) 船實速一六節

三番二編隊司令長官待受放逐東通及十三日〇〇〇〇以後一〇通二

十一通(一)間ノ尙十日〇六〇〇定吳國十三日正午ヨリ十四日三〇〇〇迄

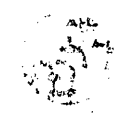
第三十一通爾後第十通各地方通船系二入ル。

昭  
信  
録

海

軍

皇軍 謀略部 高島



航空部

七八

開始 一五三〇

九

一〇

一〇

一〇

一〇

一〇

一〇

一〇

航空部

現 陸軍部

第三空襲部隊

大津第一隊

電話 〇八一三三〇

三人目 聯合作務九四號

各隊指揮官ハ五時自日聯合作務一六三號ニ依リ兵力疎離要旨左ノ通り

左ニ依リ實施スヘシ

一五三號

(1)本部 各隊第一二三號ニ水上輸送人員物件並ニ機材

(2)飛行機隊ヲ準備出來次第機ニ所定燃料並ニ機材ニ移動ス

一五三號 七三三號

一五三號

一五三號 (一八三六七五) 一三二號

386

夫々飛行機隊ノ行動ニ關シテハ遠征所定ノ編制基地ニ移動スル外  
常駐基地隊ニ移行スル如ク準備ス。

第六

第七

第八

0584

Handwritten mark

Handwritten mark

親展扱

七九

受信一三三〇

譯丁一四一〇 電〇四一三七

海特

譯取

電信十部

- 第一機動艦隊F
- 大海參一部・二艦隊F

機密第〇九一〇〇五番電

著信者 第十一水雷戦隊司令官旗艦  
通報 摩耶

聯合艦隊信電令作第八六號

第一機動艦隊司令長官ハ摩耶及驅逐艦二隻ヲ十四日正午頃迄二門司  
ニ回航セシメ第十一水雷戦隊司令官ノ指揮ヲ承ケ門司南西離島ニ展開  
スル陸軍部隊ノ進駐輸送ニ從事セシムベシ

通五五八八 日二〇〇一十一

387



0585

人表

教

七九

受信一四三一〇

譯了一五四五

電電〇〇四一六三

九八

作

作戰特別緊急

作

總長

參謀總長

聯合艦隊

五四警備隊

勇

機密第〇九一〇一二番電二分ノ一二

發 第三一軍司令官

備戰電第一八九號

一、ニ對スル敵ノ第三次飛行場施設ノ破壞ヨリ巨砲其ノ他陸上施設ノ

破壞ニ移起シ晝夜ニ亘リ艦砲射撃亦同様ニシテ昨八日ハ巡洋艦四隻

驅逐艦一〇隻ヲ以テ終夜執拗ニ繼續セリ又本九日未明空母二隻ノ近

接ヲ認ムル等敵上陸ノ算大ナリト思考ス

二、守備部隊ハ海陸一体銳意戰備ヲ整ヘ萬全ヲ期シアルモ敵上陸偵知

ノ方法ナクハ前記敵空母ニ於ケル跳梁ヲ反響制壓スベキ何等ノ手段

通五六〇六五六三四 留Bヲ七(二七六三〇)四通

388

モナク時ニ高射砲彈（海軍陸式ヲ含）ハ今ヤ全殘彈二百餘ニシテ未  
 ダ其ノ補給ノ目途無ク空海ニ於ケル敵傍若無人ノ行動ヲ默視スルノ  
 己ムナキ實情ニ在リ

三 以上ニ鑑ミ速ニ有力ナル航空兵力ヲ以テ當面紫敵竝ニ敵海空勢力  
 ノ制壓ヲ行フト共ニ高射砲彈ノ急速補給（空輸又ハ潜水艦輸送）等  
 ニ關シ至急御配慮ヲ得度返アリ度シ。

親展



七九

受書〇二二五〇五

丁〇二三〇 電〇四四五三

作

至急親展

● 東 部 隊 口

● 大 隊 一 部

● 聯合司令部・陸軍部口・伊一六五・十八軍備隊・海軍部隊（南西方面部隊）

陸軍部 後番第〇九一四〇五番電

發 南西方面部隊

伊一六五潜水艇ハ七月十七日頃、出港可能ノ見込ニシテ電令俵

四八號艦一號

捕取ノ難送物件ハ現地部隊ヨリノ希望ヲ問合せ中ナルモ未ダ回答ニ

接セザルヲ以テ、ニ於テ治療品糧食及醫藥等適宜準備整頓ノ

コトニ取對スル度。

通五九八七

天日一六一二二五〇二二一

海軍

第電十信課

8890

秘  
人  
本

作

急  
展

受領一六〇〇七

丁一六一八 電〇四一六九

△部・B2

● 伊 八  
● 大海參一部・六艦隊P・南西方面艦隊P

機密第〇九一一四五番電

NSB日艦令四號

目下ノトコロ「サツキ」二號ニ對スル連絡ナシ  
伊八艦ハ七月十五日迄ニ且點ニ至リ同二十日頃迄線  
航路ヲ逆航搜  
索シタル後機宜行動セヨ。

通五六九九 呂二Bヲ十一(一八八九〇)一〇通 海 軍

秘  
録

第...  
...

七九

受領二七四六

丁二一四六

〇四三三三

人

皇軍

- 人事局・各課
- 聯合艦隊口

共

(王勇)

(赤松)

符

聯合艦隊

機密第〇九一六〇〇番

一機動艦隊參謀長

今次機動二依ル當艦隊遭難艦乗員ハ七月十日以後夫々所管鎮守府ニ還

送セシメラル

五七八九

五二〇

要通

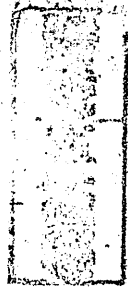
緊急  
親筆

七  
一九〇〇  
開始  
一九三五  
一七三  
五〇  
丁一七四〇  
電〇四六七一  
人

● 人 車 局

● 六十一號

機密第〇九一七〇七番電



機密第〇六一〇四八番電

今次改編ノ實施後務數ヲ迅速具體的ナラセムル爲新編制第一航空監  
各航空隊司令官決定者至急内示ヲ得度。

一 直進駐 本電開合セノ爲遅延

第五八七九 呂二聯 一一五七一〇

392

1690

去  
19  
昭和二十三年六月  
〇八四五  
〇四九九二一〇  
三〇〇〇〇  
三〇〇〇〇  
三〇〇〇〇

在ドイツ武官ヘルリン

陸軍第一九四番艦 二分ノニ 一〇一〇九〇〇

海軍省 軍務部長 軍司令部第三部長

海軍省 人事部長

一、海軍省の閣下ノ陸軍省未現ノロリマンノ人選ノ進定ナリ陸軍省ニ在  
リ海軍省在陸軍省ノ進定ナリ海軍省ノ進定ナリ海軍省ノ進定ナリ  
二、一方北極作戦ニ使ハル海軍ノ進定ナリ海軍省ノ進定ナリ海軍省ノ進定ナリ  
三、海軍省ノ進定ナリ海軍省ノ進定ナリ海軍省ノ進定ナリ海軍省ノ進定ナリ

海軍省 人事部長 軍司令部第三部長

393

的見透シツカザル狀況ニアリ

三以上ノ如キ情勢ナルヲ以テ物件並ニ人員ノ輸送ハ今日既ニ万端ノ準備ヲ整ヘ置キ時機ヲ得次第直ニ發動スルヲ要ス。一パリール以後ニテ危険地帯内並ニ治安極メテ不良ナル地帯ヲ自動車輸送ニ依ルヲ要スル處諸般ノ準備並ニ人員ノ遣リ繰リ上今次モ之便ニ依リ歸朝ヒシメラルルモノヲ至急之ヲ承知シ置クノ要アリ。就テハ既ニ發令以外ノモノニシテ今次ノ便ニ依リ歸朝ヒシメラルルモノノ有無至急通知ヲ得度。



入事

七  
一一〇 受信始一九四五〇  
譯了〇二〇〇 電〇四八八四  
人あ 事作

緊  
親展

六十一航戦  
一航空艦隊

暗號軍機

機密第一〇一一三〇番電

一機密第九〇九〇〇番電返及二A B機密第九〇九〇五番電開

七五一空機材五機(在M D三機七五五空供用中二機)及可能ナル者二組(分隊長分隊士各一組)アリ但シ分隊長ハ出來得レバ分隊士七六一空新編上殘置セシメ度希望ナリ。

通六四二七

呂二日(八九九五EC)四通放

海軍

394

入

局長

課長

局員

福

福

赤

赤

赤

赤

赤

赤

七 一一

親展扱

受領了  
〇〇〇九八二〇〇七

〇〇〇〇四四九九七六  
〇〇〇〇四四九九七六

人事・官房・陸軍

在ドイツ武官ヘルマン

暗號 秘

機密第一九〇番電四分ノ一三三四一宛番  
〇九八七  
七一〇〇〇

宛 陸海兩次官 人事局長

送 兩武官

左ノ通功機具申ス

一 空軍參謀總長 陸軍大將「ギユスター・コルテン」(GUSTAV KORTEN)

(1) 功績、一九四三年九月空軍參謀長トシテ就任スルイ前任者ノ方

針ニ大要ヲ加ヘ帝國空軍トノ協同ノ積極的緊密化ニ乗出シ特

通六五六七・六五六八・六六〇一・六六〇二 一四D(直接)

395

局長  
局員

ニ日本軍門ノ連絡將校ヲ新設シ又屢陸海軍專委員兩武官トノ  
會議ヲ遂ゲ莫ノ都度獨空軍ノ各種高度機密ニ就キテモ虚心坦懐  
ニ同示シ近クハ航空技術提携ニ對シテモ絶大ノ貢獻ヲナス等語  
國ノ爲最大ノ便宜ヲ供與シ眞ニ現下日獨協同作戰遂行ニ寄與  
ル功績顯著ナリ

(四) 獲敘旭一

ニ空軍參謀本部情報部長 空軍參謀大佐「ルドルフ・ボイダーク」

RUDOLF BOYARK

(1) 功績、一九四一年三月ヨリ四二年六月間、當時中佐及少佐、外  
國武官參謀兼參謀本部情報員トシテ當時ノ遠獨觀察團ノ觀察計  
畫ニ參與シ戰時下困難ナル當時ノ狀況下ニ我方方目的ノ達成ニ  
努メタルノモトナラス引續キ現職ニ轉出後モ貴重ナル獨空軍ノ各

種情報要訓ヲ提供或ハ實驗中ニ屬スル高度ノ技術兵器ノ製造技術導入等ニ關シ側面的援助ヲナシ殊ニ現參謀總長ノ對日積極協同方針ノ下ニ最近ニ於ケル情報方面ノ協同ハ極メテ圓滑ニ行ハレ協同作戰ニ寄與サル功績極メテ大ナリ

(四) 擬被旭三

三、空軍省外國武官掛長兼參謀部部員 空軍少佐「ハイブリット」、ゴ  
ルチエール HEINRICH HOEFER

(四) 功績、一九四三年十月現職ニ就任スルヤ「ゴルチエール」參謀總長ノ命ヲ承ケ新ニ設置サレタル日本特選連絡將校ヲ實質的ニ指導援助シ爾ニ賜ニ適時適切ナル情報資料ヲ供與シアル他諸國業務行等外國武官掛長トシテ萬般ノ指揮處理ニ任ジ我方任務ノ遂行ヲ容易ナラシメ帝國ニ寄與サル直捷間接ノ功績極メテ大ナリ

(四) 擬被、旭三

四 第一戰團後編團參謀 陸軍參謀中佐「ハイブリック」、ゼーリガ上

功績

(4) 功績、一九四二年六月ヨリ四三年六月ニ至ル間（當時少佐）外  
國武官署長兼參謀本部部長トシテ帝國トノ情報交換ヲ指導援助  
シ貴重ナル情報資料ヲ提供スルト共ニ我方ノ會議觀察施行等  
ノ高敏ニ對シ好意ヲ以テ幹旋勢力シ我方ノ任務達成ニ貢獻ヤ  
シ功績大ナルト共ニ殊ニ本人ノ帝國ニ對スル信頼尊敬ノ念  
ハ間接ニ獨空軍中堅幹部ヲ動シ日獨空軍協同ノ氣運ヲ醸成ナル  
功又大ナリト認ム

(4) 褒敘旭四。

海軍省  
文書部

海軍省  
文書部

8690

人事



七一三

開始一五四〇五

一八〇〇

五五五  
五五五  
五五五  
六二四  
六二四

官・令  
人・令  
軍・令  
三令

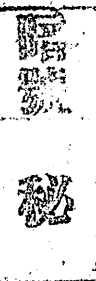


課長 局長

在ドイツ政府（ベルリン）

次次

長官



機密第二〇八番電二分二三 一〇一三三〇

發 在獨武官

着信者 次 官 次 長

獨機密第一九〇番電關聯

敘勳左ノ通具申ス

飛行聯隊長空軍中佐「ロイヤール・フオン・ヤンソン」(LOEHAR P-1

ON JANSON)

通十三四三・七三一五・七三四一

イ四〇

海軍

395

第十卷

(イ) 功績昭和十九年三月十日松本伊號第二九潜水艦ノ「ロリアン」入港ニ際シ之ガ警戒掩護飛行機隊「E-16」指揮官トシテ自ラ出動「ビスカヤ」灣ニ於ケル回艦掩護任務中同日一七〇〇頃來襲セル敵双機ト交戦之ヲ擊退松本無事入港シ重大使命ヲ達成シ得タルモ自ラ連ニ部下搭乗員諸共我が視界内ニ於テ墜落壯烈ナル戦死ヲ遂ゲタリ

(ロ) 略歴一九〇八年七月十日 BERHARD VON JABRON 海軍中佐ノ息トシテ「キール」ニ生ル ベルリン大學卒業後一九二八年四月一日東「プロシヤ」騎兵聯隊ニ入隊一九三一年十二月一日中尉ニ任官一九三三年十月一日空軍ニ轉籍一九三六年六月一日大尉一九四〇年七月少佐一九四二年十一月一日中佐ニ遷任其ノ間中隊長大隊長ノ各種戰鬥飛行部隊指揮官空軍省空軍大學ノ教員等ニ補セラレ戦功顯著ナリ一九四三年十一月飛行師團參謀勳務中選バレテ海軍協同飛行聯隊長ニ轉出今日ニ至ル

海軍  
十位  
勳

海軍  
(ロ)

(イ) 最高勲章 西遊牙 SPANISH KNIGHTS IN BISHOP

(ロ) 勲章 三

(内) 同上 搭乗員 電信員 下士官 「ハンス・シュタルツロツク」 (HANS SCHWARZ) 偵察員 下士官 「ハインツ・シヨルダイ」 (HEINZ SCHOLDEY)。

第十卷

海軍



事

# 作

七一三

受領開始  
〇〇三〇〇

丁〇三四五

〇五六四

作

五基地航空隊

大海軍一部・聯合機隊口・一〇二三空

海軍航空隊

機隊第一二二〇〇三番電

五基地航空隊合作第一六七號機隊

攻撃第一〇四飛行隊へ銀河實動四機搭乗員三七組へ大部訓練隊成

ノ現状ハ作戦準備概成迄香取ニ於テ練成ニ専念サレノ度。

昭和七年八月一日至十一月二十六日二二二編

397

人事

緊急親展

局長

課長

局員

七一六  
受信一三三九  
始一四三五

譯了一四五八  
電〇六九〇七

人分  
事副長

階級 極秘

機密第一六一一五〇番電

第二課長官

作職任務遂行ニ支障ナシ。當該部ニ左記要員ヲ緊急實施ノコトニ御  
取計相成度  
艦隊機關長・作職主務參謀・航空乙參謀・整備參謀。

通九三三七 月二? (一八九八〇) 十通

海軍

398

第拾參號

局長 議長

局長 議長

局長 議長

局長 議長

局長 議長

局長 議長

局長 議長

局長 議長

第十卷

親展

親展

三十三卷

三十三卷

親展

三十三卷

三十三卷

三十三卷

三十三卷

三十三卷

三十三卷

三十三卷

三十三卷

三十三卷

三十三卷

三十三卷

三十三卷

海

軍

三

399

海

軍

大日本海軍の発展と海軍省の設置  
 明治五年（一八七二年）海軍省設置  
 海軍省の設置は、海軍の統制と発展を目的として、内務省から独立した省として設置された。これにより、海軍の発展と近代化が推進された。

第十倍線

人事

局長

課長

局員

長

陽

王

志

海

海

海軍

七  
一七

開始二〇〇三〇一

終了二〇四〇

七〇七四一三

作  
動

至  
急

聯合艦隊

大 海 兵 隊 佐 官

海軍第一七一八〇二番艦

「ろ」艦作戦艦隊司令部艦長

「ろ」艦作戦艦隊司令部艦長

通九九七七 日二日ラ一一八〇佐通

海軍

親急  
親屬

一、三三三三

一、八二〇

一、七七四九

一、作

信號

一、八二〇二

一、一〇〇二

一、一五二

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、三三三三 一、八二〇二 一、七七四九 一、作

勇

第十

401

入等

第二課長

局員

福野

石川

第10信

入等

七一九 陸軍 〇〇九八三〇五 丁一四〇〇 〇〇八〇九一 作

陸軍 〇〇九八三〇五

陸軍 〇〇九八三〇五

大津通商

南西方面

三二通

機密第一八一四二八番

長井

通報者 楠本第三部長

一、比島ニ於テハ... 支隊大ナリ兵隊除ハ無補工員一〇ニテ中山若城ノ附... 隊ノ増強ニ急手配アリ度

通一〇七四八 二八一五七一〇四 三二通 海軍

402

8090

第一課長

局長

電信課  
第十課

送附り第一南支隊隊長第二南支隊長ノ兵隊ノ比島ニ轉用方南支方  
 面陸軍ニ他部ナリ  
 三 兵工廠積蓄ノ通商兵隊者ノ不願ニシテ兵隊部品材料未着多ク各司  
 合部實施部隊長口同番ニ批難ノ難大ナリ。

海軍



等

七一五

受取一八三〇

丁一九〇〇

〇〇八二〇〇

作(新)本



● 國府建設費

● 大蔵省一第・地金建設費

● 陸軍第一八一六〇五番

三〇八二二三

● 二八新地建設費

● 國府建設費

● 貴族院第一三一六〇五番

● 下北州(四五〇新以上)銀行ハ四十日以上(陸軍ノ買物ニ依レバワイ

ビームノマノクワリ)開始百軒ヲ十八日(ヲ要シ糧食ハ最大二十日

外ヲ施行シ得ルニ至キズ檢中補給給ト不能ニシテ生殺者一隊ヲ

外務省公取一ノ為原者相傳アリ

第一〇六五三・一〇九四〇・一〇九六五

第三日(一四九三〇)三一編

軍

493

第...課

牙蘭方艦隊を捕獲し、船中諸般品類を悉く奪取し、乗組員ノ遺骸ニ依レバ「カイマンヤ」  
 艦船三五〇号三十七日夕方に不慮に沈没アリ  
 牙蘭ノ船々艦隊ハ前出ノ如クニ艦ノヲ因襲ニシテ破獲者ト雖モ大部分ハ當  
 舟楫人同様に力ノ精進大ナルノミナラズ長時且多量シ艦ヲ先ス  
 ン放レアリ、則ち艦隊チ一七〇〇乃重〇七〇〇艘後ノ艦隊チ是ナル一  
 月間ノ其力「ニ」艦も此ノ期間ニ於テ大減又ハ本艦チ是ノ要員ヲ奪取  
 尚艦隊シ艦無類ノ者ハ航行セシムルコトニ取計モ多量艦隊是迄  
 大艦三隻  
 牙蘭艦隊ハ十六日、十七日一七二〇號方武庫上陸ニテ「バネ」艦  
 由「ソロン」ニ寄港セリ。

海軍

0611

親展

受領 一九三〇

丁二〇三五

電〇八二三二

製作

緊急

聯合艦隊

永川丸

傍

南西方面艦隊口・三南遊艦隊口

機要

機密第一九〇七二五番電

一本船自力航行ニ依リ十九日一四〇〇頃M.D入港ノ豫定ナリ

目下第一船艙浸水吃水頗ハ増進浦水排水ニ努力中ナルモ浸水ノ數ナ

シ其ノ他前部飲料水艙水艙船艙第一番二重底飲料水艙及第二番二

重底右舷飲料水艙何レモ浸水漏水中ナリ

M.D入港後陸上ト連絡ノ上被害状況ニ就キ詳細調査ノ上報告スベキ

モ應急補強ノ上内陸降投ハ可能ナルモ南西方面陸定行動ヲ進行スル

コトハ困難ト認メラルヲ以テ今後ノ行動ニ關シ御指令ヲ乞フ。

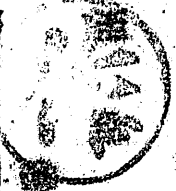
通一〇九七二 長一〇八一五七一〇四三三二

海軍

404

第一編 第一卷 第一號  
昭和十一年六月一日  
海軍省  
印刷部  
印刷

目次  
九  
一八  
〇〇  
一九〇五  
二〇八二〇三



大 海 参 一 艦



海軍省 第一九一五五〇番

北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長

六月一日 北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長  
六月一日 北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長  
六月一日 北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長  
六月一日 北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長  
六月一日 北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長  
六月一日 北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長  
六月一日 北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長  
六月一日 北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長  
六月一日 北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長  
六月一日 北 東 方 面 艦 隊 参 謀 長

第一一〇一五 第一一〇一五 第一一〇一五 第一一〇一五 第一一〇一五

海 軍

405

第一隊長  
局長  
局長  
局長  
局長

第十信課

全急  
親展

七二〇  
受信一八四二  
開始一八一五  
一〇一九一〇  
〇〇八五八七六  
人官  
事房

大 臣

共 符

機密第二〇一一三五番電 二分ノ三

發 南東方面艦隊長官

實方面交通杜絶ノ關係上差當リ今期考課表進達ノ見込立タザルニ依リ  
部下主要職員中進級ニ特別ナル御詮議ヲ得度キ者ニ就キ左ノ通取致ス  
電報進達ス

一 藤永一四五六  
二 水一八運糧部長兼市街地區防衛指揮官トシテ昨  
年々當方面運輸ニ記録的功績ヲ舉グ今年ハ地區防衛指揮官トシテ兼テ勤勞  
功績特ニ優秀トシ

通一四五七 呂四A・四四一八三一〇K〇八通 海 軍

406

第二課

海軍

第十課

三 齊藤一四六四 一〇 陸地隊司令 第二海軍補充部長トシテR R

聯合飛行場部長指揮官ヲ兼テ五千名ニ近キ部隊ヲ掌握ヲホール西地

區ヲ防衛ニ當リ陸軍師團兵團等ニ伍シ勤務シ拔群ナリ

江成一七八三九 第二八陸軍隊長トシテ第三飛行場部隊指揮官

ヲ兼テ飛行場増成及改良トベテ各方面ヲ防衛ニ當リツツアリテ功績

人物ヲ著進等一頭地ヲ獲キテ應召後ノ停年永カラザルモ特別人

物ナルニ依テ特ニ進級御説議ヲ得度

海軍

入部

第一局長

局長

局長

局長

局長

福邸

子男

子男

子男

石川

子男

子男

第十課

七

二九

三〇

三一

三二

三三

三四

三五

三六

三七

三八

急作

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

大坂第一区・海上部・海上部・海上部・海上部・海上部

機密第二〇一九四四番

陸軍機密

本機

陸軍省防衛課司令部

種子島海陸三式午撃隊司令部

第一一五九三

天日

海軍

Handwritten signature

軍事

電報

緊急

七二一

受信開始 〇〇九五〇〇五

了 〇九二八

電 〇八八二一

軍務

陸政・統本・人事

在ドイツ武官（ベルリン）

機密第二五五番電（宛番八七） 一九一三三〇〇

受信者、在獨武官

着信者、軍務局長、陸政總務部長

受報者、人事局長、統本總務部長

獨機密第二五四番電

五魚雷製造調整取扱講習ニ關シ民間商社等ヲ物色ヤルモ機密保持ノ關係モアリ適當ナル候補者ナク一方講習者ハ成ルベク今次モ之便ニテ歸朝ヤシムルヲ最良トスル點等ヲ考慮シ當方電氣關係監督官技師ヤマトタダヲヲシテ七月二十三日ヨリ約三週間「ゴーテンハ」

第一一七八二イ四B（直譯）

海軍

第十信課



0617

ヘンレニテ特別講習ヲ受ケシノ所要製造圖面ト共ニモシテ歸朝ヤ  
シノ度  
貴憲至急返。

第百  
十信  
牌

海  
2  
軍

大

# 親展作

二一 受領三〇二〇五

丁二〇二〇 號〇八九八〇 作

緊 急

● 大分隊一號空艦隊

● 六一號艦

● 大海軍一部・聯合艦隊中・第一航空艦隊中・第二、第三各航空艦隊

海軍省

機密第三一五三七號

二十六號機司令部

當機燃料一般に逼迫シ且燃料夕刻ヨリ夜半ニ罄リ天候悪化シテ敵艦アリ夜間訓練不可施ナルヲ以テ七〇回飛行隊八日組三機ヲ強シト  
トニ移動線成ニ從事ヤシク度ニ付了承ヲ得度。

ケミタケ

1409

海軍省

海軍

六九

第十課

# 親展報

七三三

受領二八四五

丁二二三五

電〇九三九五

特設  
郵政・軍務

東京通信隊

● 聯合艦隊口、一機動艦隊、十海、佐田、三一連、機名

機密第二二二一一三〇番電 二分、一

發 第二艦隊參謀長

宛 艦政本部總務部長 軍務局長

通報者 佐鎮參謀長 佐世保工廠 第五百一工作部 第五百三工作部

第一南進艦隊參謀長 第三南進艦隊參謀長

要目 哨信機裝備情況及要領事項左ノ通

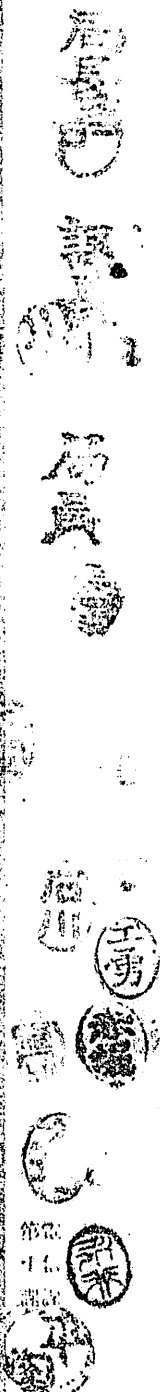
未裝備艦

(4) 第二艦隊機名 (八月十二日佐世保出撃機二機機号要ス) 第二水雷

艦隊機運送機波ノ除々全艦(計一一)

通一二五三二

八月一日夕十一(一七五九〇電)十通海 軍



4/10

(四) 日通入

最上、第十限段、驅逐艦艇風才除々全圖(附五)  
予要領工事軍艦ハ作業地驅逐艦中基礎工事未済ノモノハ最寄工作艦依  
照トシ完成時額八月上旬トス

一 電信線註 本圖其ノ二分ノ二未達

第  
十  
課

海  
軍